

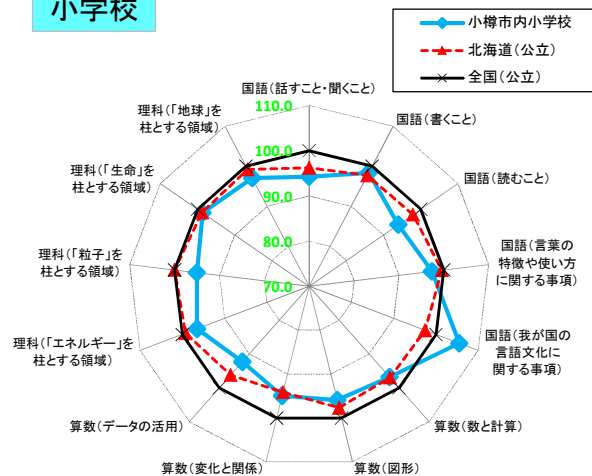
■小樽市内の状況及び学力向上策（小学校数:17校、児童数:625人）（中学校数:12校、生徒数:618人）

【教科全体の状況】

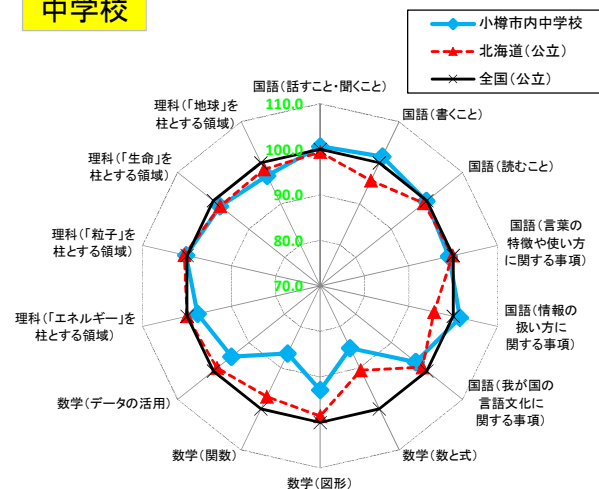
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	63	69
算数・数学	60	46
理科	61	48

小学校

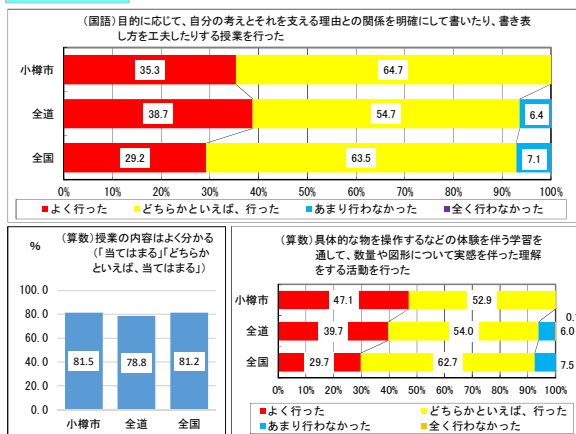


中学校

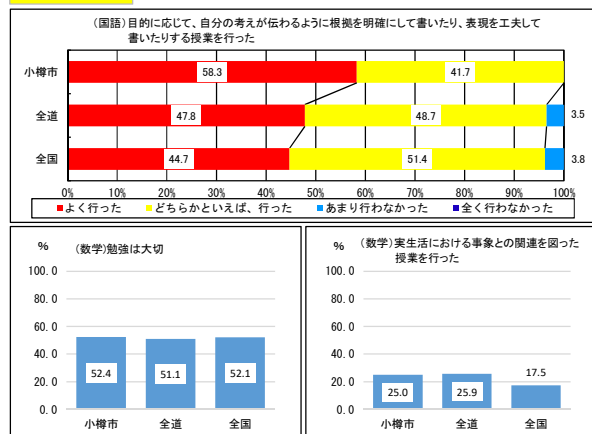


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
国語の指導において、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行ったことにより、国語の「書くこと」の領域において全道を上回ったと考えられる。 算数の指導において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行ったことにより、算数の授業の内容はよく分かったと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
国語の指導において、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、国語の2領域1事項において全国及び全道を上回ったと考えられる。 数学の指導において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の勉強は大切と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【小樽市の学力向上策】

- ◎ 「小樽授業づくりの5つのSTEP！！」に基づく、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- ◎ 市内全小学校第3・5学年、中学校第2学年を対象とした標準学力調査の実施と、その結果を活用した授業改善
- ◎ 「小樽市小中一貫教育基本方針」に基づく、義務教育9年間を見通した教育課程の編成や乗り入れ授業等の実施
- ◎ 1人1台端末の効果的な活用を目指した端末活用推進チーム（道教委事業）及びICT支援員の支援訪問の実施
- ◎ 「小樽市教育委員会研修プログラム」の開催等を通じた教員の指導力向上

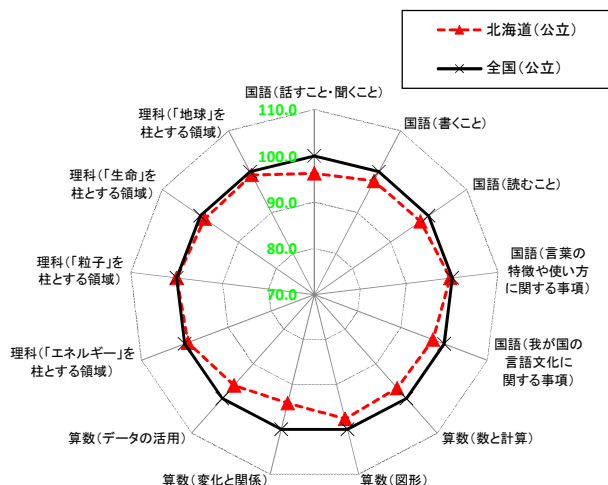
■島牧村内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:6人）（中学校数:1校、生徒数:4人）

※児童生徒数が少なく、個人が特定される恐れがあるため、教科及び児童生徒質問紙のデータは掲載していない。

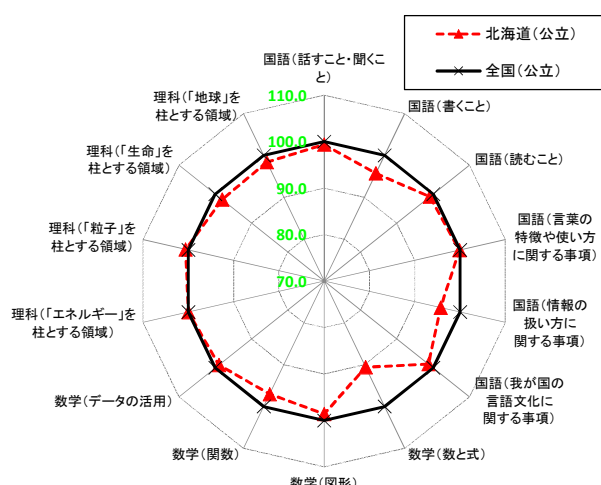
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

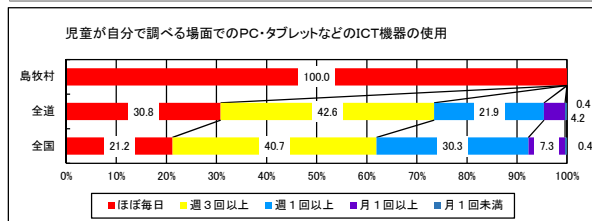
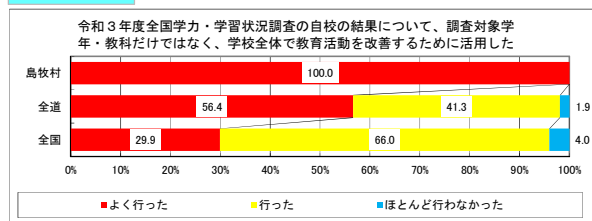


中学校

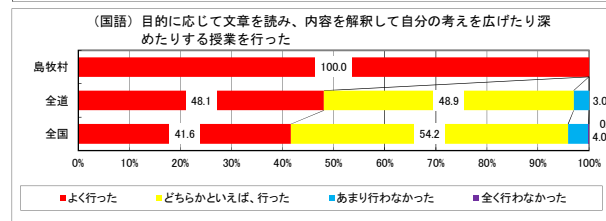
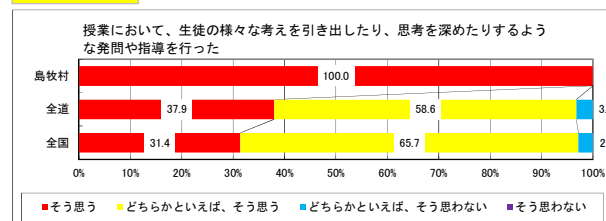


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用したことにより、授業改善が図られ、国語、算数及び理科における基礎的・基本的な力が定着したと考えられる。

授業において、児童が自分で調べる場面PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日活用したことにより、授業改善が図られ、国語、算数及び理科における基礎的・基本的な力が定着したと考えられる。

中学校

授業において、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を行ったことにより、国語、数学及び理科における基礎的・基本的な力が定着したと考えられる。

国語の指導において、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする授業を行ったことにより、国語における基礎的・基本的な力が定着したと考えられる。

【島牧村の学力向上策】

- ◎ 個に応じた指導の充実を図るとともに、小学校における朝・放課後学習、夏季・冬期休業期間の学習サポート、中学校における放課後サポート、夏季・冬期休業期間の学習会などの実施
- ◎ 小・中学校が連携し、算数・数学や外国語の学力向上に向けた乗り入れ授業、オンライン授業などの推進

■寿都町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:17人）（中学校数:1校、生徒数:9人）

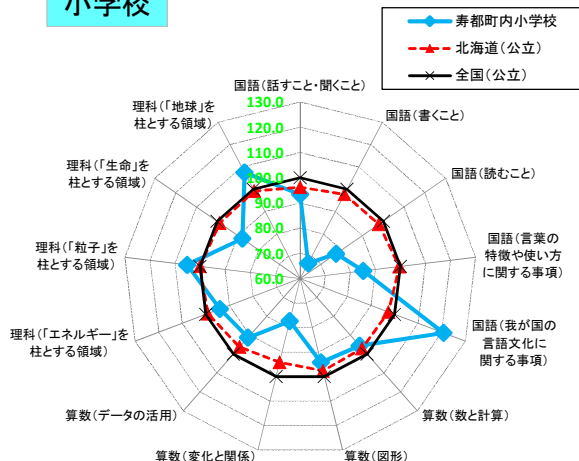
※生徒数が少なく、個人が特定される恐れがあるため、中学校の教科及び生徒質問紙データは掲載していない。

【教科全体の状況】

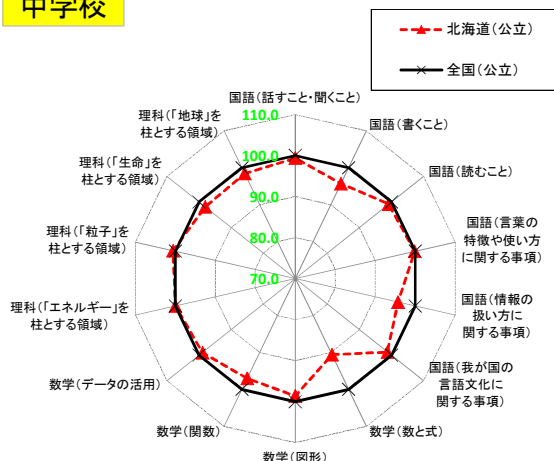
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	56	—
算数・数学	57	—
理科	61	—

小学校

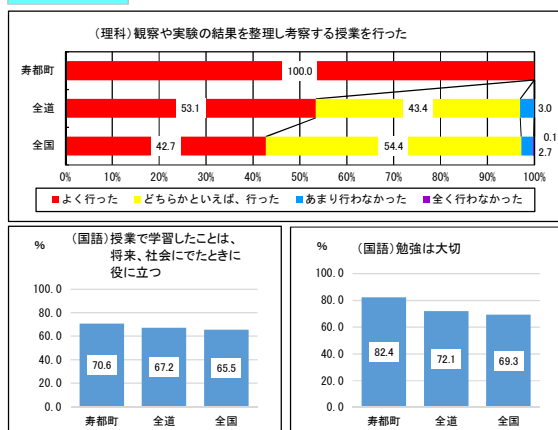


中学校

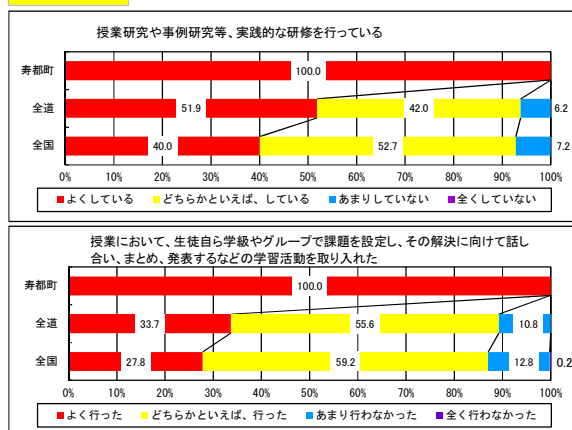


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
理科の指導において、観察や実験の結果を整理し考察する授業を行ったことにより、授業改善が図られ、理科の2領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。
国語の指導において、児童が将来、社会に出たときに役に立つと思える授業を行ったことにより、国語の勉強は大切だと思う児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
授業研究や事例研究など、実践的な研修を行ったことにより、授業改善が図られ、国語や数学における基礎的・基本的な力が定着したと考えられる。
授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、国語や数学における基礎的・基本的な力が定着したと考えられる。

【寿都町の学力向上策】

- ◎ 学習支援員の配置による習熟度別少人数指導等の指導の推進
- ◎ 家庭学習の手引きや生活リズム調査による家庭学習習慣の定着を図る取組の推進
- ◎ CSによる地域人材を活用した学習や地域全体が一丸となって子どもたちの成長を支える取組の推進
- ◎ 小中高連携推進委員会による乗り入れ授業を通じた授業の質の向上、各校の授業状況を共有し、スムーズな校種間移行に向けた体制の推進
- ◎ 1人1台端末等、ICT機器による授業での効果的な活用や地域資源を生かした体験活動の促進

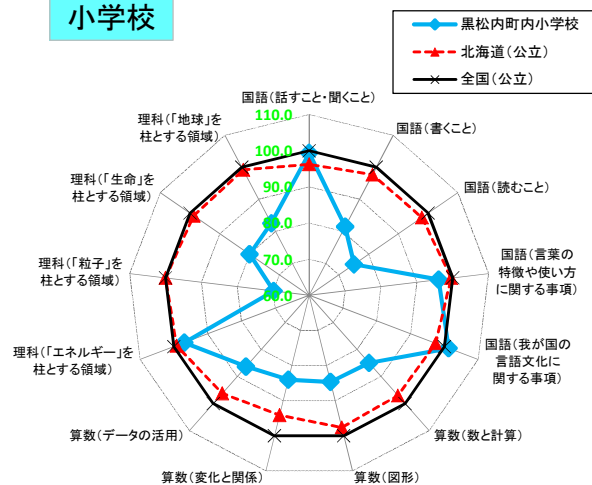
■ 黒松内町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:19人）（中学校数:2校、生徒数:20人）

【教科全体の状況】

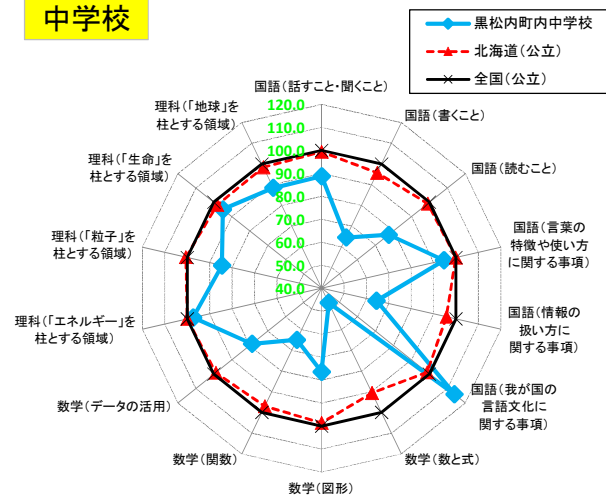
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	59	65
算数・数学	53	33
理科	50	45

小学校

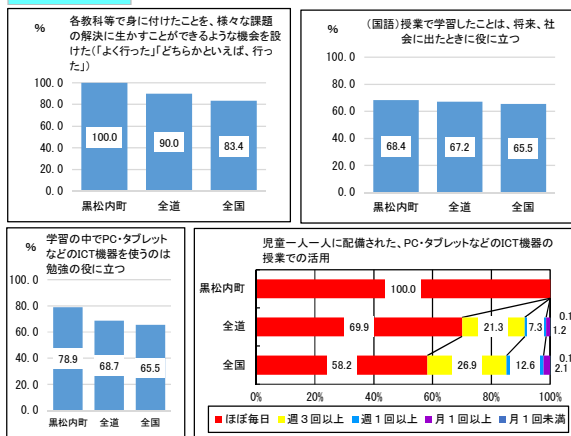


中学校

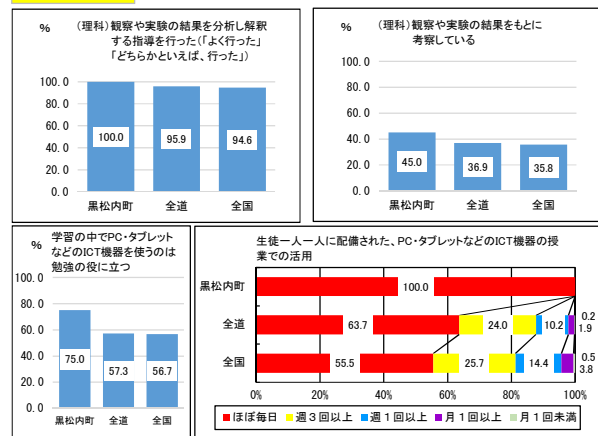


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けるなど授業改善を図ったことにより、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

児童一人一人に配備された、PC・タブレットなどのICT機器を授業でほぼ毎日活用したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

理科の指導において、観察や実験の結果を分析し解釈する授業を行ったことにより、理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

生徒一人一人に配備された、PC・タブレットなどのICT機器を授業でほぼ毎日活用したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【黒松内町の学力向上策】

- ◎ 学力の定着と学習意欲の向上のための町営塾の運営
- ◎ 国際交流協力員等による外国語活動や英会話教室の実施
- ◎ 児童生徒の実態に応じたICTを活用した授業づくりの推進
- ◎ 児童生徒個々の実態に合わせた基礎学力の定着と学習意欲の向上を図るため、学習支援員及び特別支援教育補助員を配置

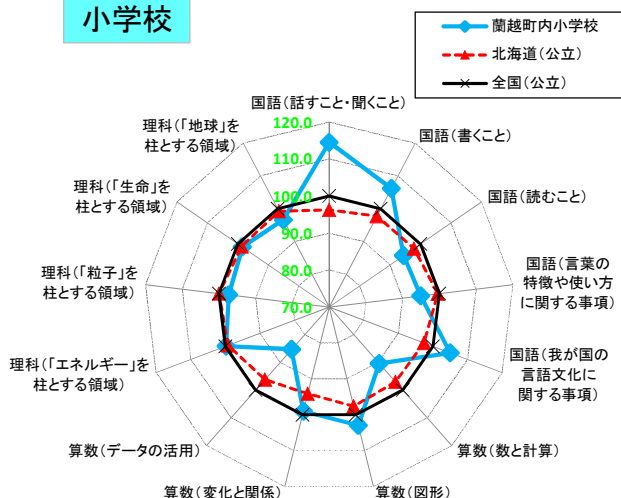
■蘭越町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:33人）（中学校数:1校、生徒数:31人）

【教科全体の状況】

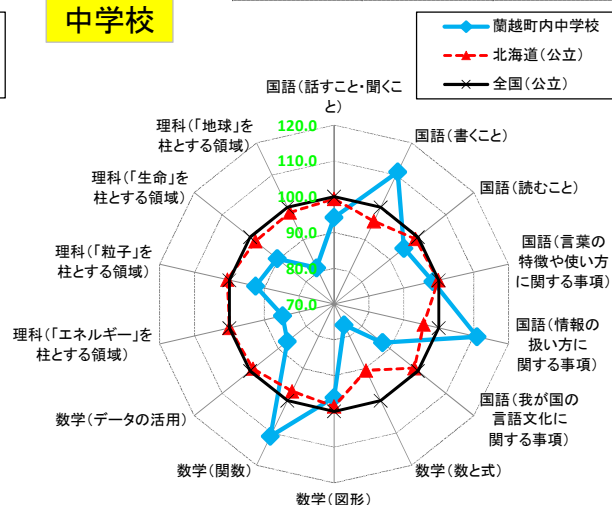
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	65	66
算数・数学	61	46
理科	62	43

小学校

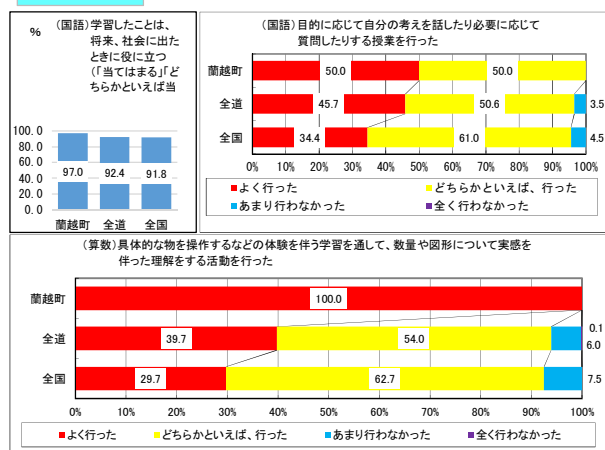


中学校

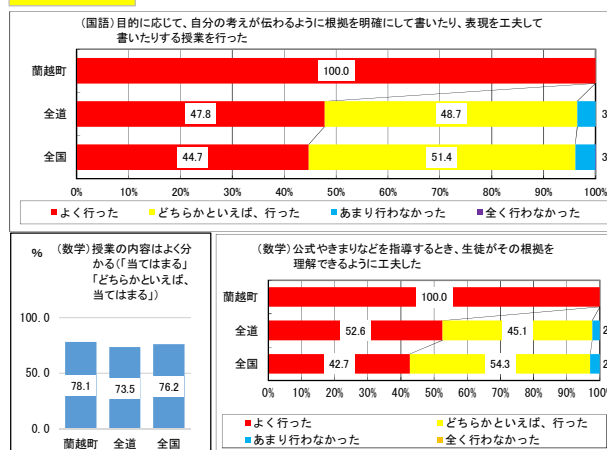


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の指導において、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行うなど授業改善を図ったことにより、学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うようになり、「話すこと・聞くこと」の領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の指導において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感をついた理解をする活動を行ったことにより、「図形」の領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の指導において、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、「書くこと」の領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の指導において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫するなど授業改善を図ったことにより、授業の内容はよく分かるようになり、「関数」の領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。

【蘭越町の学力向上策】

- ◎ 全国学力・学習状況調査の結果を分析し、授業改善や児童生徒の学習への関心や意欲を高める取組の支援
- ◎ 生徒の習熟の程度に応じた指導の強化ときめ細かな学習指導の充実
- ◎ 校長、教員に助言を行う学校教育アドバイザーを配置し学校の教育活動を推進
- ◎ 小・中学校で学習規律を統一し中学校進学時においても学習に取り組むやすい環境を確保
- ◎ 家庭学習の習慣化の定着へ向けた推進

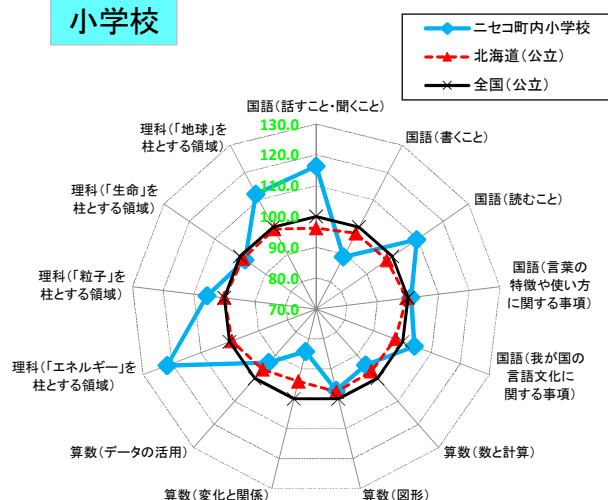
■ニセコ町内の状況及び学力向上策（小学校数：2校、児童数：37人）（中学校数：1校、生徒数：32人）

【教科全体の状況】

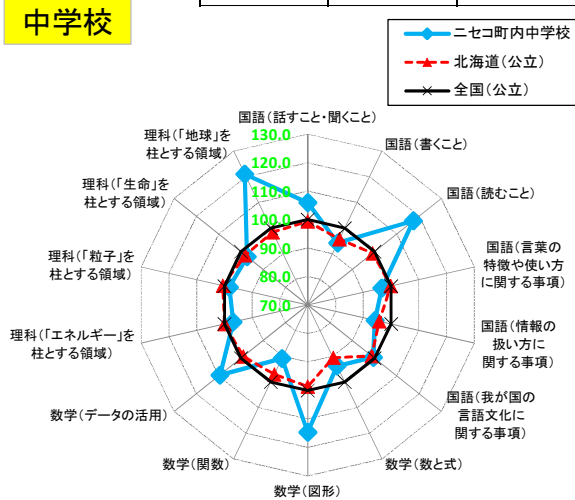
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	69	69
算数・数学	58	52
理科	68	51

小学校

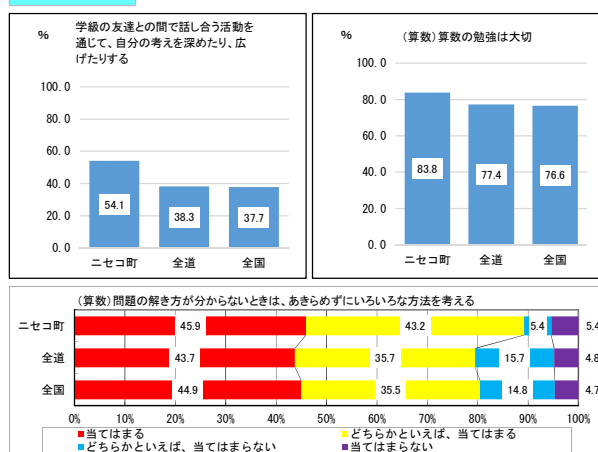


中学校

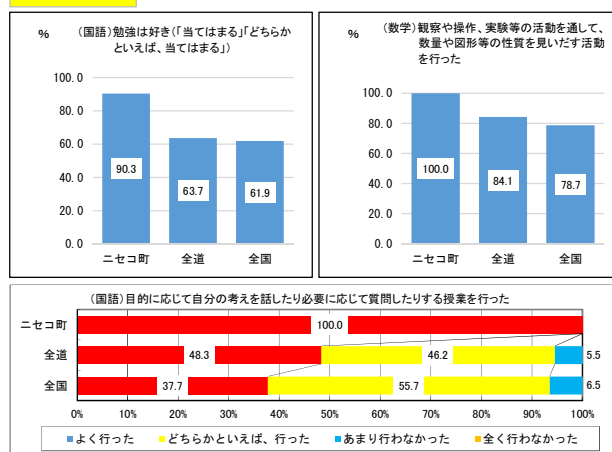


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしたことにより、国語の2領域2事項において全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の指導において、問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える授業を行ったことにより、児童は算数の勉強は大切と考え、「図形」の領域において全国及び全道に最も近付いたと考えられる。

中学校

国語の指導において、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、生徒は国語の勉強が好きになり、「話すこと・聞くこと」の領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の指導において、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行ったことにより、授業改善が図られ、「図形」の領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。

【ニセコ町の学力向上策】

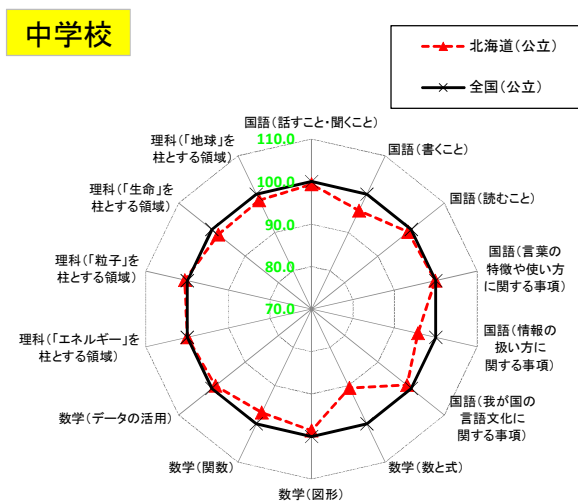
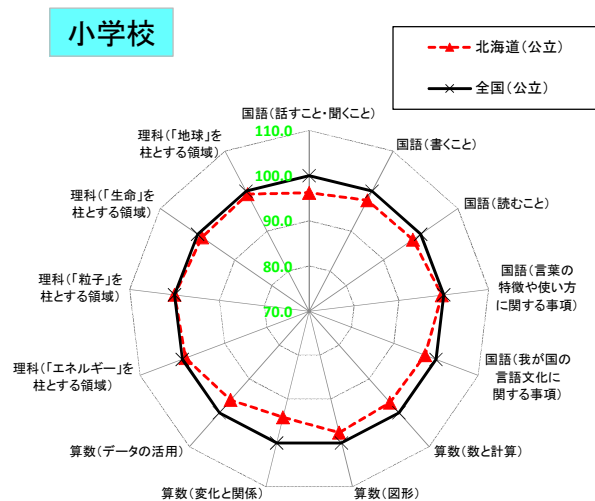
- ◎ 「学校評価ガイドライン」に基づく幼・小・中・高の連携強化と学校改善の推進
- ◎ ICT機器を活用した児童生徒の主体的な学習活動や、学習意欲、思考力、判断力、課題解決力を育成する教育の展開
- ◎ 外国人指導助手を活用した生きた英語による児童生徒のコミュニケーション能力と国際感覚の養成

■真狩村内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:10人）（中学校数:1校、生徒数:8人）

※児童生徒数が少なく、個人が特定される恐れがあるため、真狩村の教科及び児童生徒質問紙データは掲載していない。

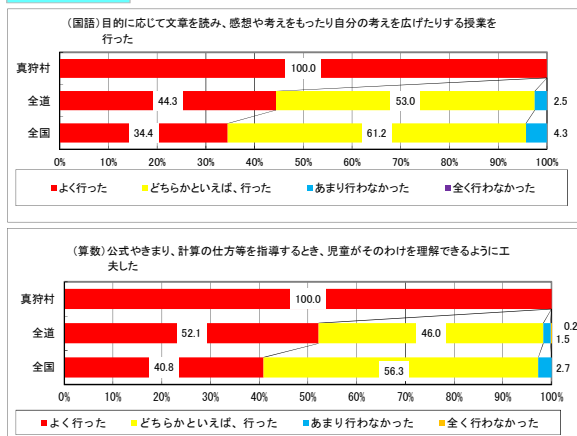
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

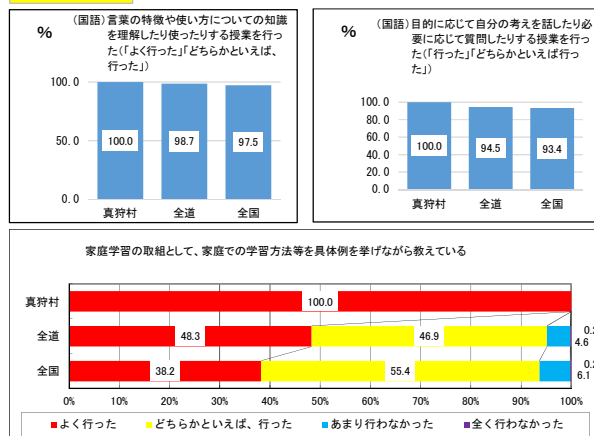


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
国語の指導において、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりする授業を行ったことにより、授業改善が図られ、国語における基礎的・基本的な力が定着したと考えられる。 算数の指導において、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫したことにより、授業改善が図られ、算数における基礎的・基本的な力が定着したと考えられる。

中学校
国語の指導において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業や、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、国語における基礎的・基本的な力が定着したと考えられる。 家庭学習の取組として、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えたことにより、生徒が見通しをもって家庭学習を行うことができるようになり、国語、数学及び理科における基礎的・基本的な力が定着したと考えられる。

【真狩村の学力向上策】

- ◎ 基礎的・基本的な知識・技能等の確実な習得を目指す、ICTを基盤とした創造的な教育活動の展開
- ◎ 習熟度別・少人数指導による放課後学習の展開
- ◎ 文字に親しむ環境をつくり、読解力を育む読書活動の推進

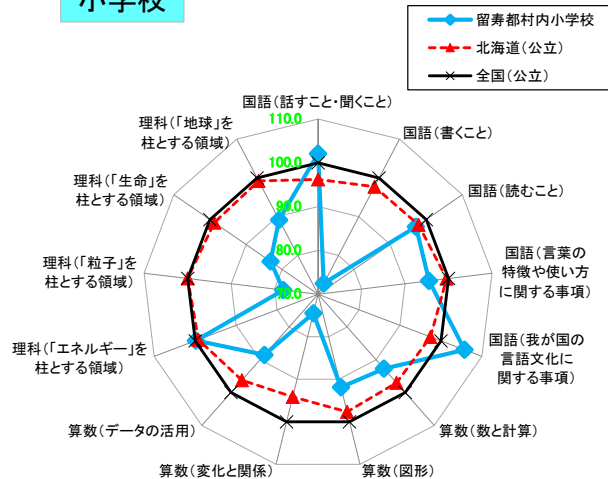
■留寿都村内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:17人）（中学校数:1校、生徒数:13人）

【教科全体の状況】

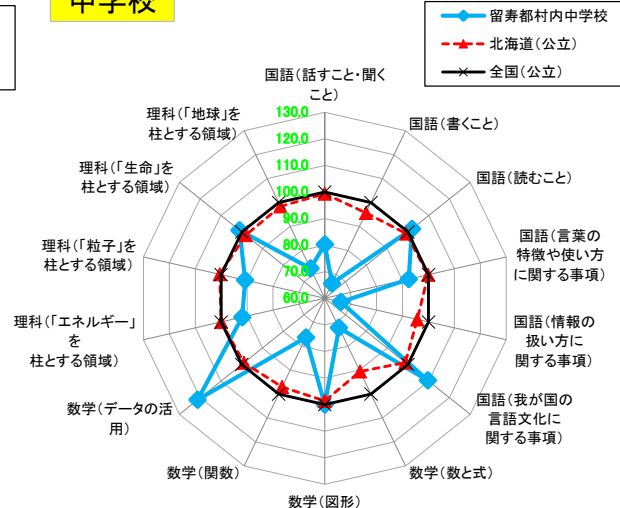
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	63	65
算数・数学	56	46
理科	54	44

小学校

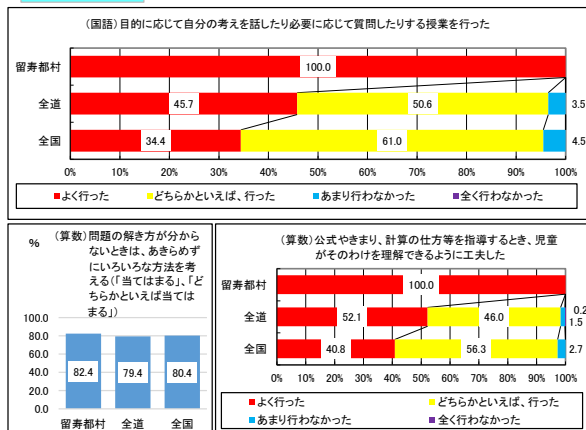


中学校

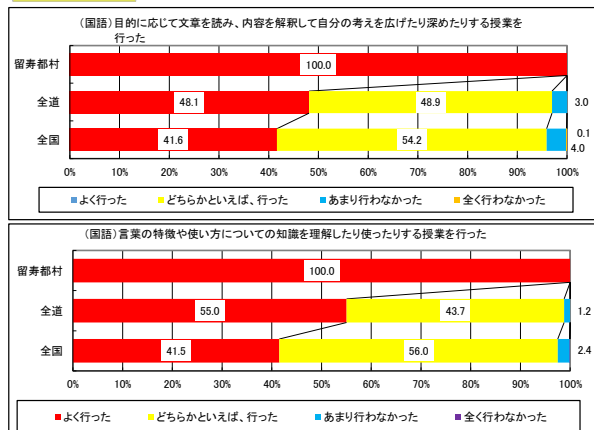


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の指導において、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業や自分の考えが明確に伝わるように表現を工夫する授業を行ったことにより、児童自身の話す力と話を聞く力が培われ、「話すこと・聞くこと」の領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の指導において、公式やきまりなどを指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫するなど授業改善を図ったことにより、問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の指導において、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを上げたり深めたりする授業や言葉の特徴や使い方について理解したり使ったりする授業を行ったことにより、生徒自身の読む力が培われ、「読むこと」の領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。

多くの生徒が数学の重要性を理解し、解き方がわからない問題にもあきらめずに多角的な視点から問題に取り組む普段の姿勢が「データの活用」の領域において全国及び全道を大きく上回る結果につながったと考えられる。

【留寿都村の学力向上策】

- ◎ 「村内に学習塾がない」というハンディの解消を図るべく、大手学習塾と連携し「オンライン授業」を提供
- ◎ 放課後学習支援事業「まなびサポート」の利用登録者を対象に北海道学力コンクールの受験費用の補助
- ◎ タブレットドリルを活用して学びの充実を図るとともに、家庭学習での活用などを通し確かな学力のより一層の定着の推進

■喜茂別町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:10人）（中学校数:1校、生徒数:12人）

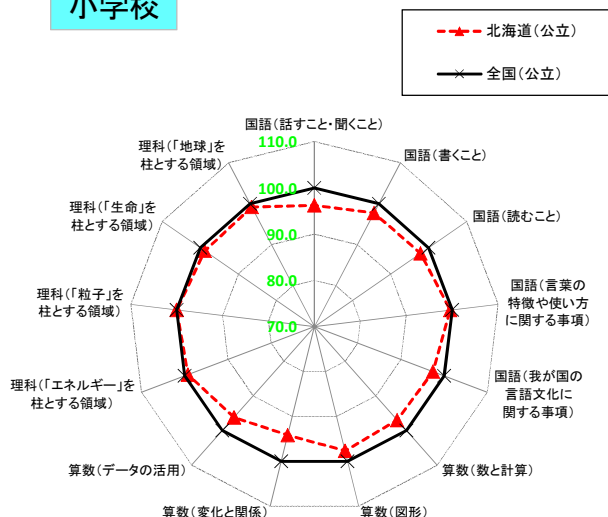
※児童数が少なく、個人が特定される恐れがあるため、小学校の教科及び児童質問紙のデータは掲載していない。

【教科全体の状況】

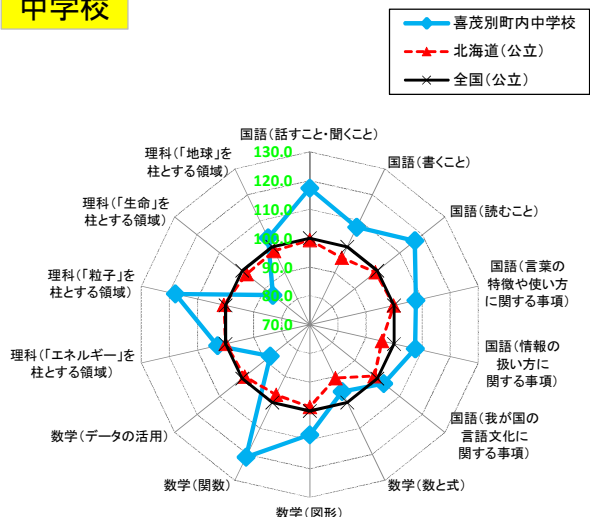
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	—	74
算数・数学	—	52
理科	—	50

小学校

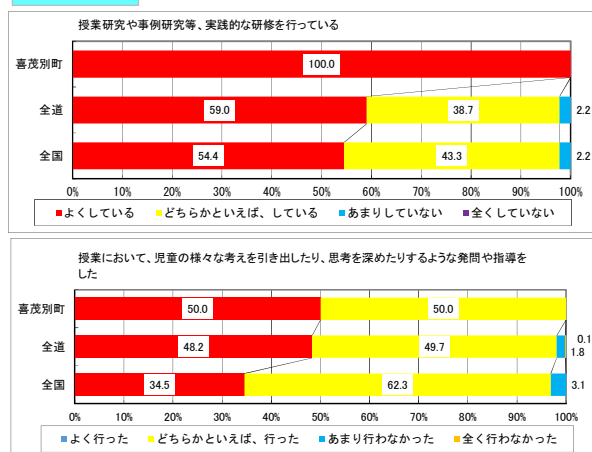


中学校

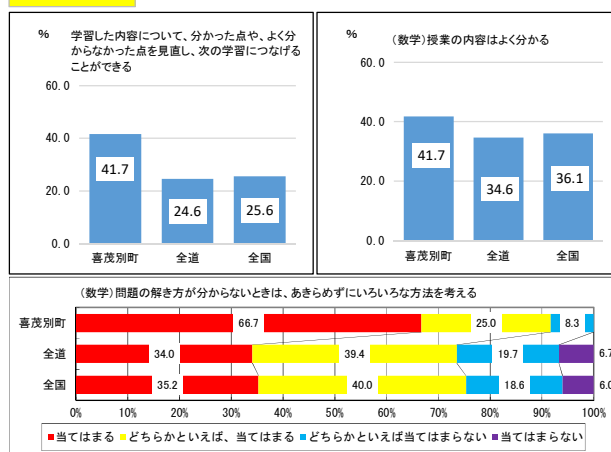


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
授業研究や事例研究等、実践的な研修を行ったことにより、授業改善が図られ、国語や算数における基礎的・基本的な力が定着したと考えられる。
授業において、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしたことにより、国語や算数における基礎的・基本的な力が定着したと考えられる。

中学校
学習した内容について、分かった点や、よく分らなかった点を見直し、次の学習につなげることができたことにより、国語の全領域と全事項において全国及び全道を上回ったと考えられる。
数学の指導において、問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える授業を行ったことにより、授業の内容はよく分かる生徒が増え、数学の2領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。

【喜茂別町の学力向上策】

- ◎ ICT機器やAIソフトを効果的に活用した「分かる喜びのある授業」づくりによる確かな学力の育成の推進
- ◎ 小中連携による義務教育9年間を見通した一貫性、連続性のある学習規律と指導の実施
- ◎ 理科専科教員による乗り入れ授業の実施

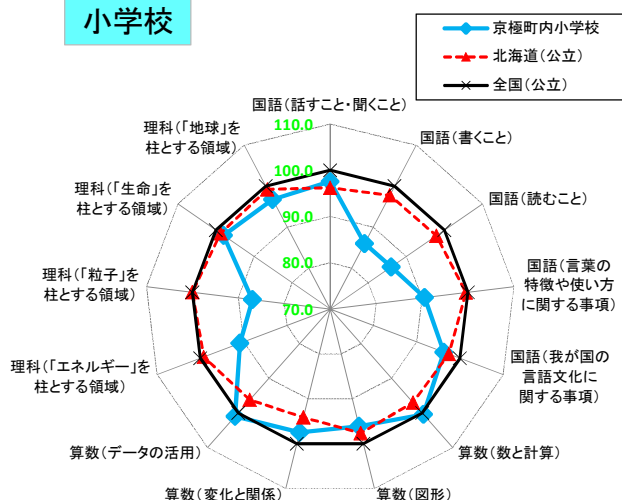
■京極町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:24人）（中学校数:1校、生徒数:28人）

【教科全体の状況】

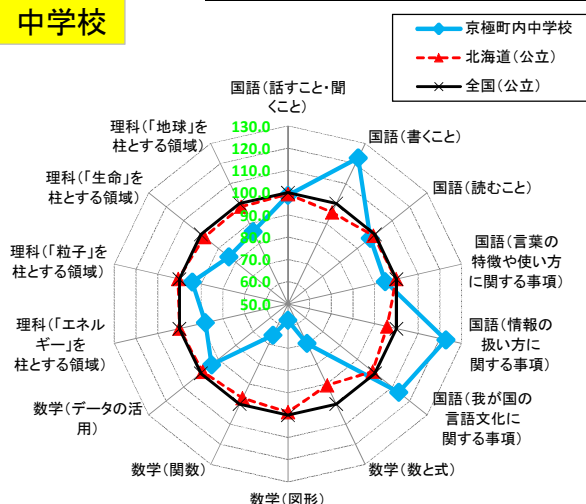
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	59	70
算数・数学	62	37
理科	60	43

小学校

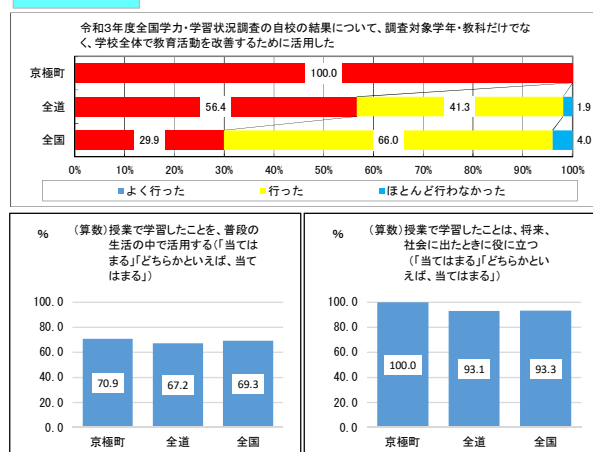


中学校

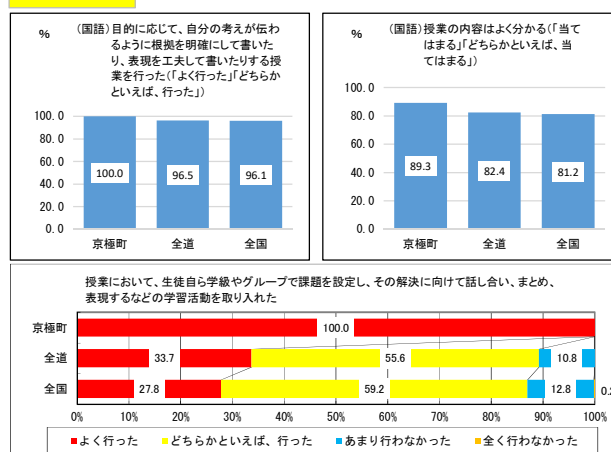


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用したことにより、国語の「話すこと・聞くこと」の領域において全国に最も近付いたと考えられる。

算数の指導において、授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える授業を行ったことにより、児童は、授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと考え、2領域で全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の指導において、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、生徒は国語の授業がよく分かるようになり、「書くこと」の領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。

授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、授業改善が図られ、数学の「データの活用」の領域において全国に近付けることができたと考えられる。

【京極町の学力向上策】

- ◎ 「京極STANDARD」に基づき小中連携して取り組む課題解決型授業の充実による義務教育9年間の学びの連続性確保
- ◎ 加配教員・非常勤講師・特別支援教育支援員を配置し、児童生徒の教育的ニーズに配慮した学習活動の展開
- ◎ 1人1台端末を活用した授業の活性化と深化、デジタル教材活用による基礎学力の確実な定着

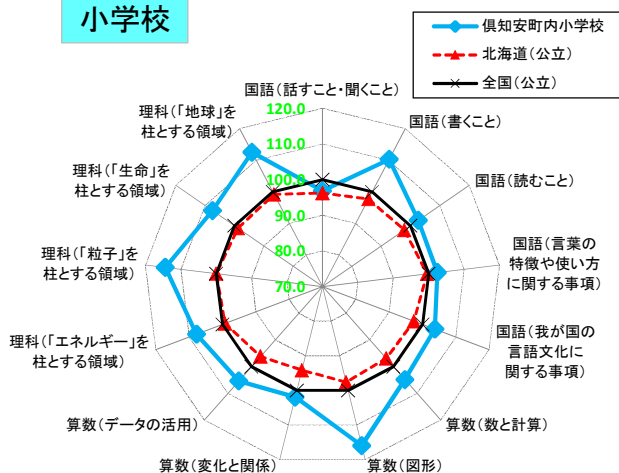
■ 倶知安町内の状況及び学力向上策 （小学校数:5校、児童数:99人）（中学校数:1校、生徒数:117人）

【教科全体の状況】

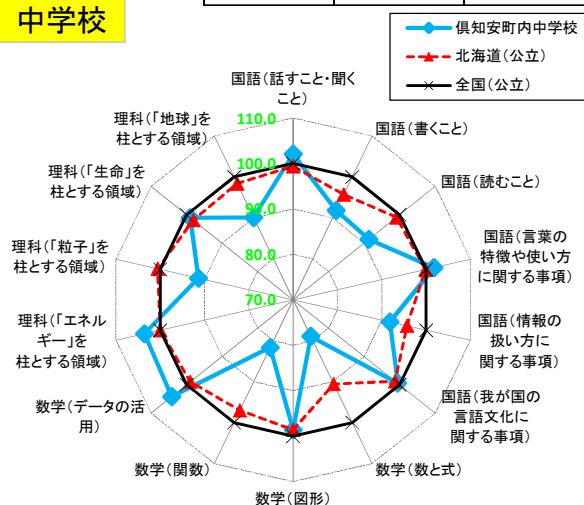
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	67	68
算数・数学	68	46
理科	70	47

小学校

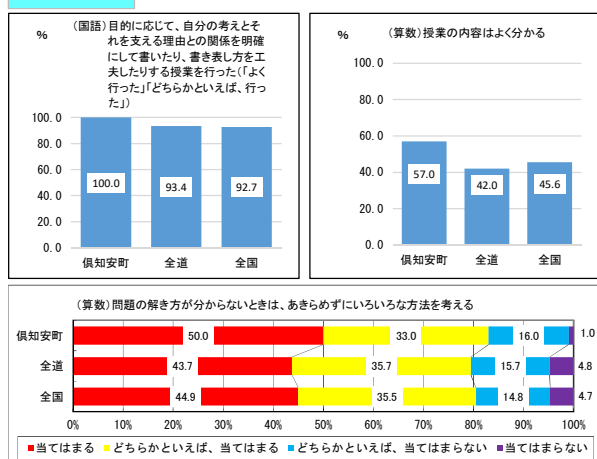


中学校

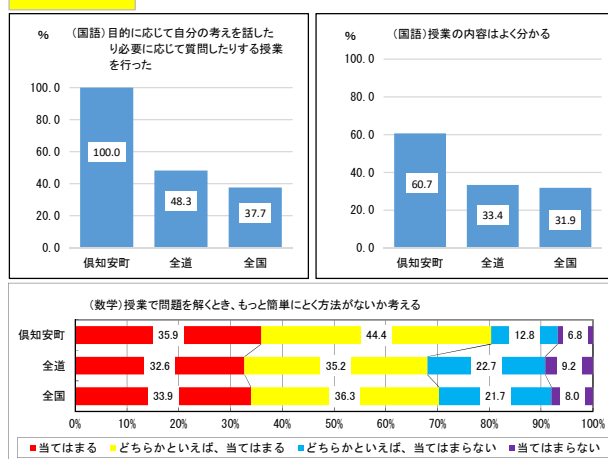


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の指導において、目的に応じて、自分の考えとそれを変える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行ったことにより、授業改善が図られ、2領域2事項において全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の指導において、児童が算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えることができるように授業を行ったことにより、児童は算数の授業の内容がよく分かるようになり、算数の全領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の指導において、生徒が目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりすることができるように授業を行ったことにより、生徒は国語の授業の内容がよく分かるようになり、国語の「話すこと・聞くこと」及び「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の指導において、問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える授業を行ったことにより、授業改善が図られ、「データの活用」の領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。

【倶知安町の学力向上策】

- ◎ 学校と連携した「学校力向上に関する総合実践事業」の推進
- ◎ 「倶知安プラン」に基づいた学習規律・授業展開統一の推進
- ◎ 英語専科教員・理科専科教員による乗り入れ授業の実施

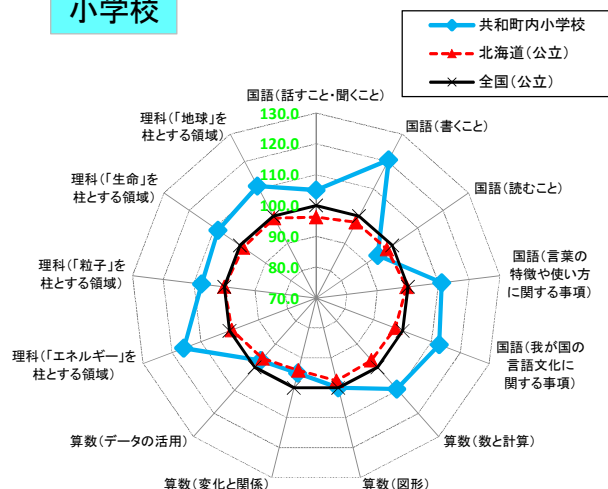
■共和町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:41人）（中学校数:1校、生徒数:30人）

【教科全体の状況】

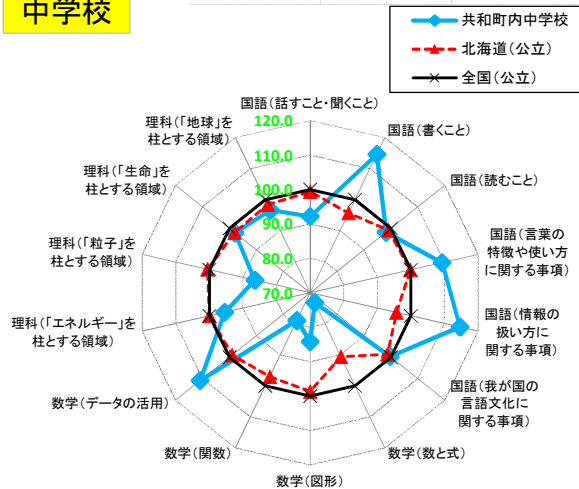
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	70	72
算数・数学	65	44
理科	69	47

小学校

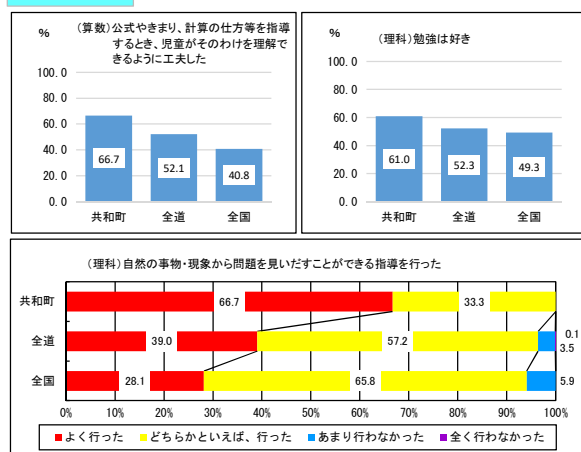


中学校

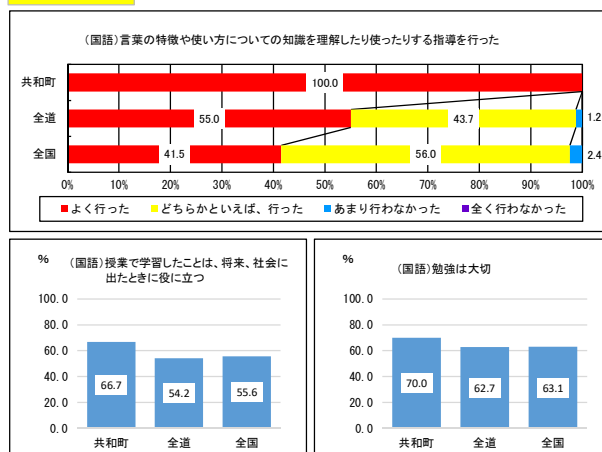


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
算数の指導において、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫したことにより、算数の数と計算の領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。
理科の指導において、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行ったことにより、授業改善が図られ、全ての領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
国語の指導において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の1領域2事項において全国及び全道を上回ったと考えられる。
国語の指導において、生徒が将来、社会に出たときに役に立つと思える授業を行ったことにより、国語の勉強は大切だと思う生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【共和町の学力向上策】

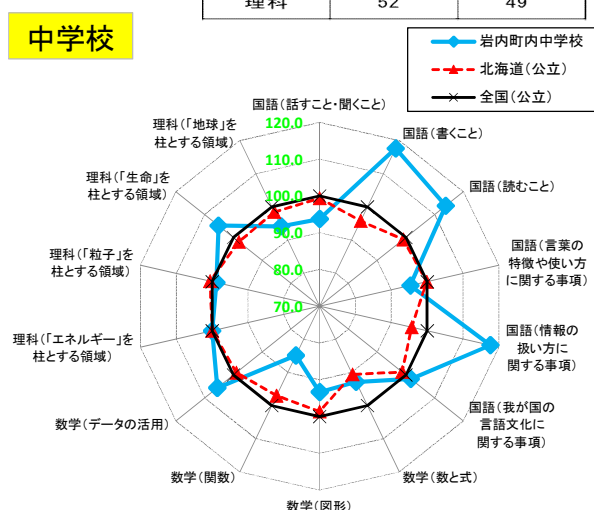
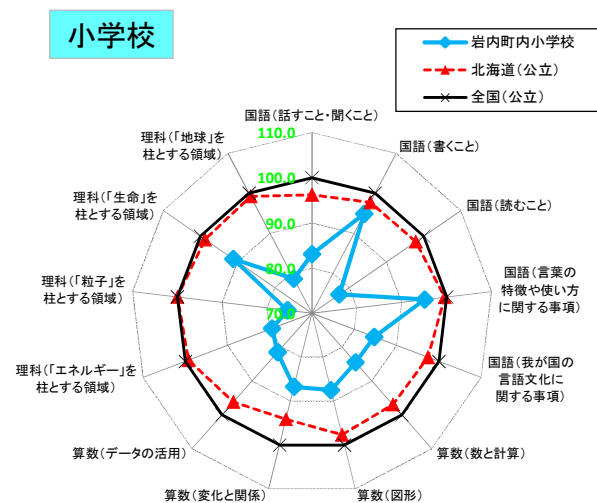
- ◎ 特別支援教育支援員及び外国語指導助手の配置による教育指導体制の充実
- ◎ 各種検定試験に係る受検料の全額助成
- ◎ ICTを活用した基礎学力の定着・向上に向けた取組の推進

■岩内町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:50人）（中学校数:2校、生徒数:64人）

【教科全体の状況】

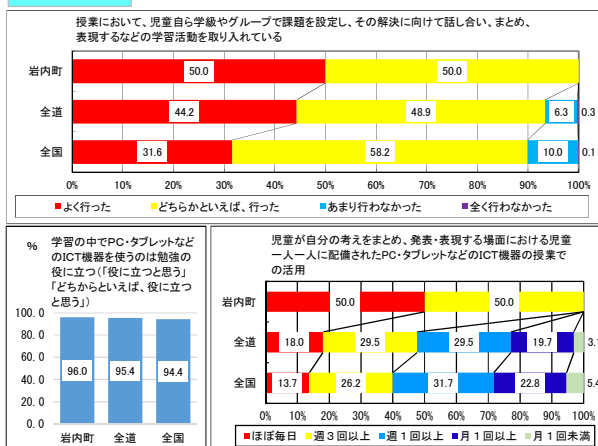
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	57	70
算数・数学	54	49
理科	52	49

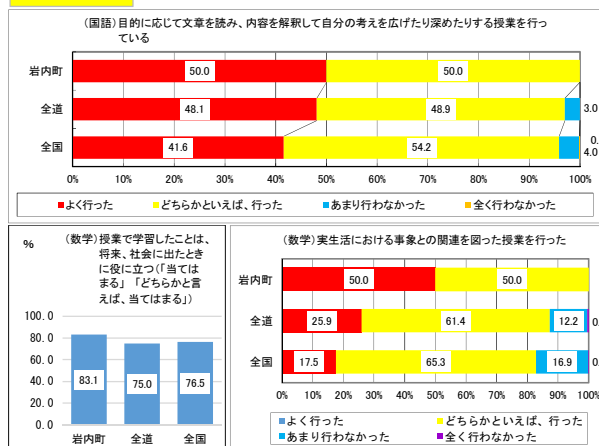


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、国語の「書くこと」の領域と「言葉の特徴や使い方に 関する事項」において全国及び全道に近付いたと考えられる。 児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面において、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を授業で多く活用したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICTを使うのは勉強の役に立つと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	国語において、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを上げたり深めたりする授業を行ったことにより、国語の「書くこと」「読むこと」の領域と「情報の扱い方に 関する事項」において全国及び全道を上回ったと考えられる。 数学において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、生徒が数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うようになり、数学の「データの活用」の領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。

【岩内町の学力向上策】

- ◎ 小中一貫教育の推進
- ◎ 複数教員の配置による習熟度別少人数指導
- ◎ 基礎学力向上の定着を図るための学習指導員の配置
- ◎ ICTを効果的に活用した授業実践

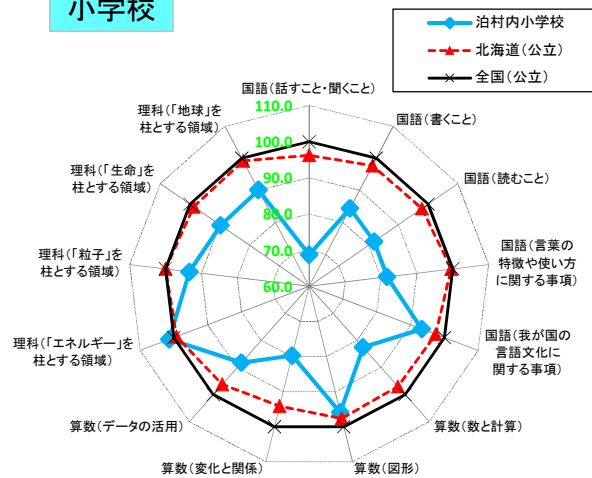
■泊村内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:11人）（中学校数:1校、生徒数:13人）

【教科全体の状況】

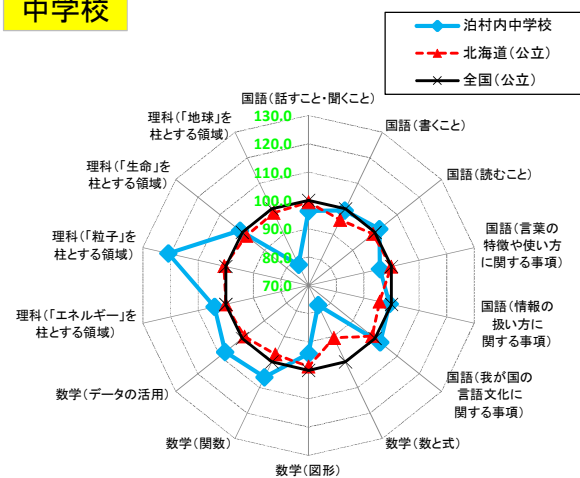
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	53	68
算数・数学	55	48
理科	58	49

小学校

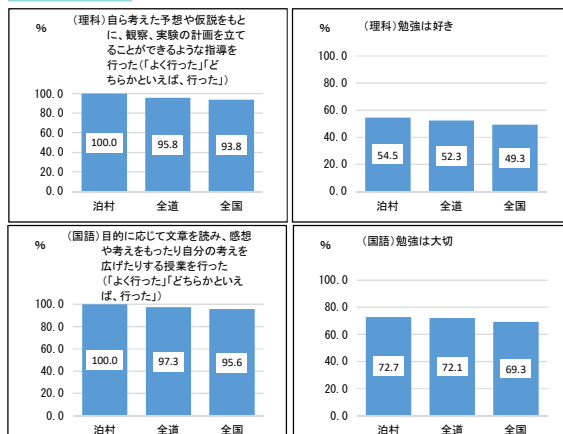


中学校

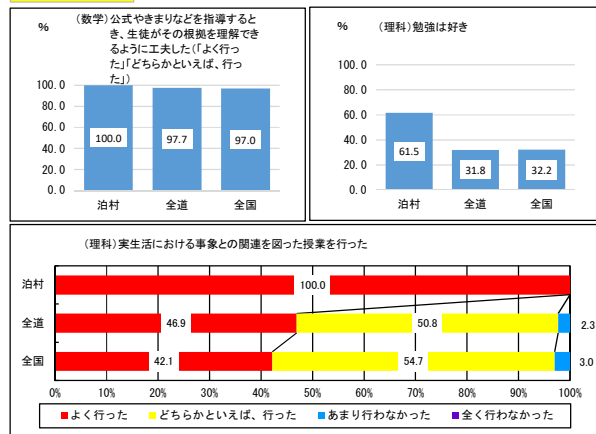


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
理科の指導において、自ら考えた予想や仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行ったことにより、児童は理科の勉強が好きになり、理科の「エネルギー」を柱とする領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。
国語の指導において、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり自分の考えを広げたりする授業を行ったことにより、国語の勉強は大切と回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
数学の指導において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫して授業を行ったことにより、数学の2領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。
理科の指導において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、生徒は理科の勉強が好きになり、理科の3領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。

【泊村の学力向上策】

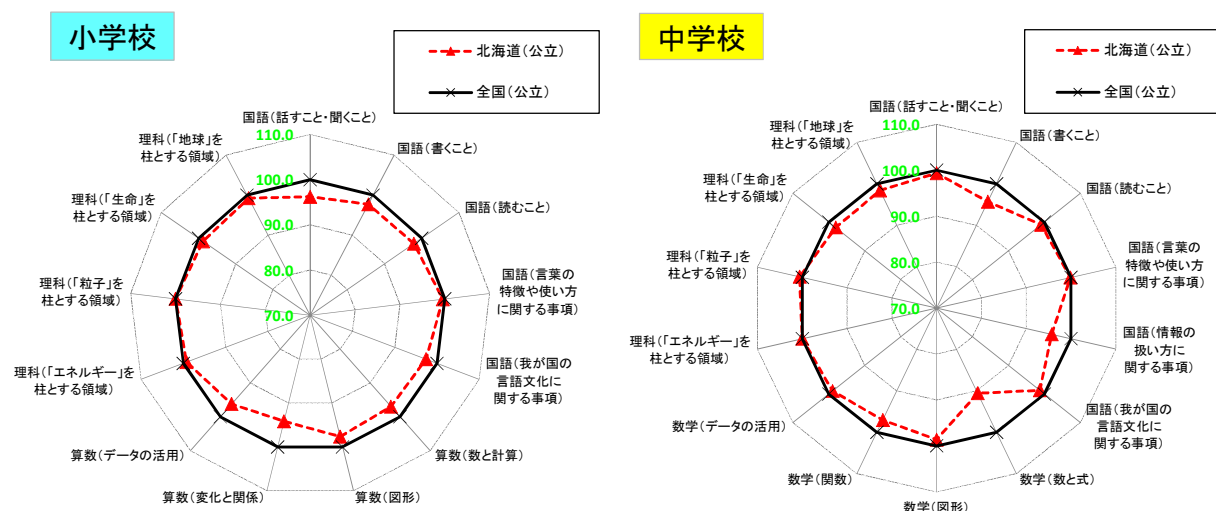
- ◎ 異校種連携(神恵内小)の学習機会の拡充
- ◎ 小・中学校教員の乗り入れ授業(国語・算数・数学)を通した、指導方法の研究と共有
- ◎ ICTを活用した中で「協働的な学び」と「個別最適な学び」を目指した授業の推進
- ◎ 長期休業中に伴う学習会の提供と、学習内容(工夫・改善)の充実
- ◎ 学ぶ意欲の育成を目指し、小・中学校で統一した9年間を見通した学習規律・展開

■神恵内村内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:3人）（中学校数:1校、生徒数:5人）

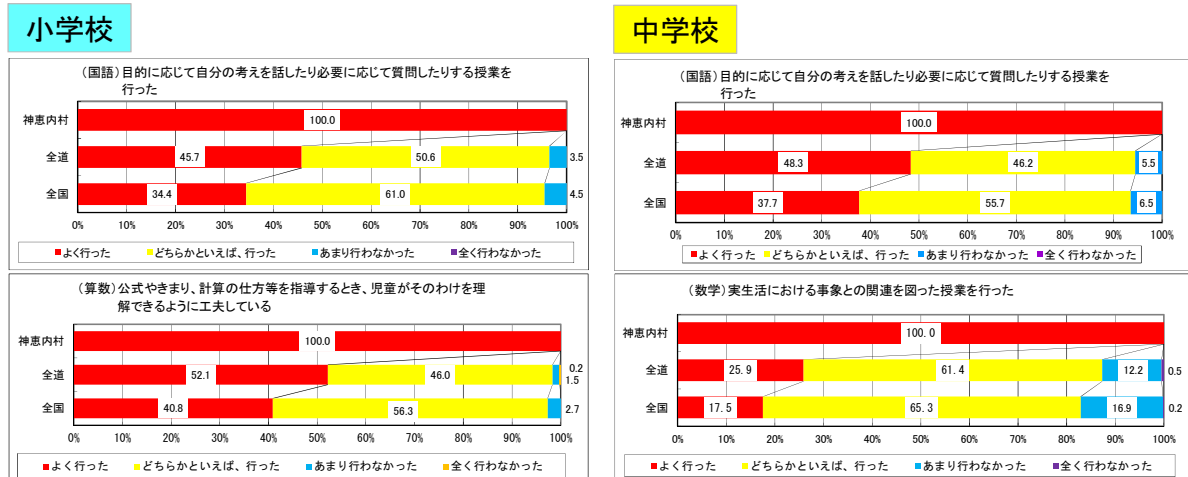
※児童生徒数が少なく、個人が特定される恐れがあるため、神恵内村の教科及び児童生徒質問紙データは掲載していない。

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の指導において、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、国語における基礎的・基本的な力が定着したと考えられる。 算数の指導において、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫するなど授業改善を図ったことにより、算数における基礎的・基本的な力が定着したと考えられる。	国語の指導において、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、国語における基礎的・基本的な力が定着したと考えられる。 数学の指導において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学における基礎的・基本的な力が定着したと考えられる。

【神恵内村の学力向上策】

- ◎ 小中連携により、義務教育9年間を見通した一貫教育の体制づくりの推進
- ◎ 教育の質の向上を実現するためのICT教育の充実及びタブレット持ち帰り（電子ドリル）による家庭学習の定着の推進
- ◎ 特別支援教育体制を充実するなど、児童生徒に対するきめ細かな教育・指導体制の整備

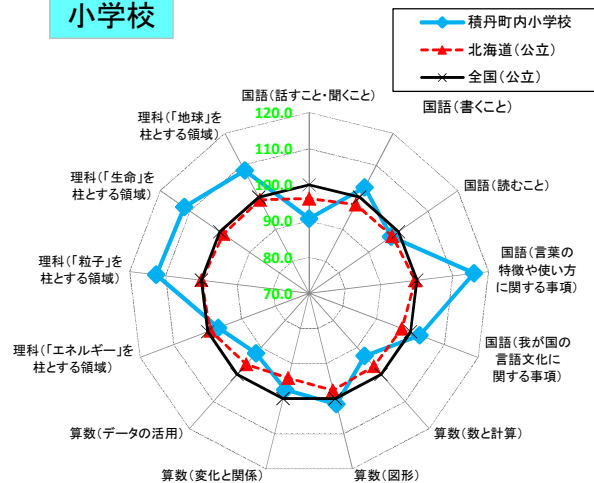
■積丹町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:10人）（中学校数:1校、生徒数:7人）

【教科全体の状況】

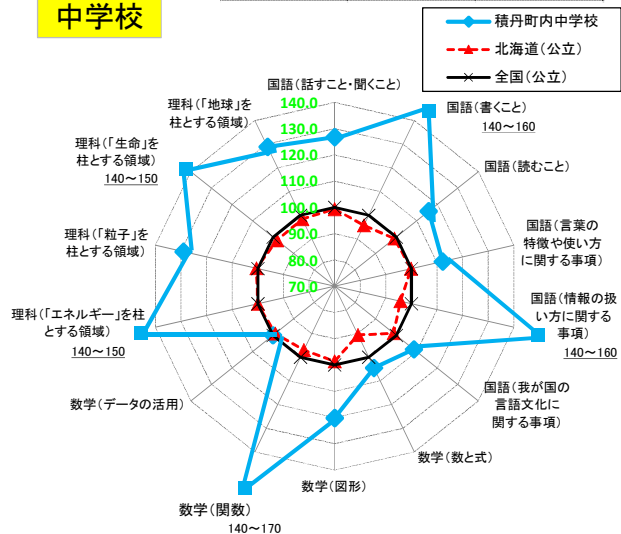
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	69	80
算数・数学	61	60
理科	68	67

小学校

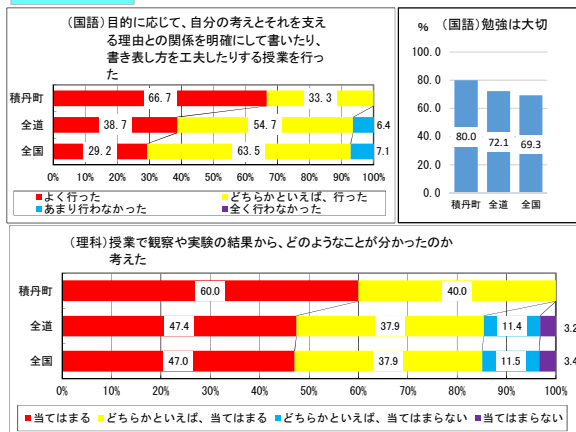


中学校

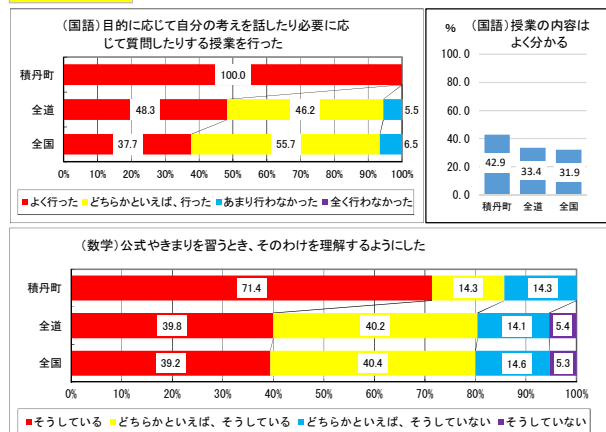


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
国語の指導において、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行ったことにより、児童は国語の勉強が大切と思うようになり、国語の1領域2事項において全国及び全道を上回ったと考えられる。 理科の指導において、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考える授業を行ったことにより、授業改善が図られ、理科の3領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
国語の指導において、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、生徒は国語の授業の内容がよく分かるようになり、国語の全ての領域・事項において全国及び全道を上回ったと考えられる。 数学の指導において、公式やきまりを教えるとき、そのわけを理解するように授業を行ったことにより、授業改善が図られ、数学の3領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。

【積丹町の学力向上策】

- ◎ 学習習慣の定着と学力向上を図ることを目的に、地域おこし協力隊を活用したB&Gサポートゼミナールを実施(中学生対象)
- ◎ 教育支援を必要とする児童生徒の指導の充実を図るため教育支援員を配置し、きめ細かな指導を継続
- ◎ 学習指導員による放課後を活用した補習授業のサポート(オンライン学習サポート)を実施(小学生対象)

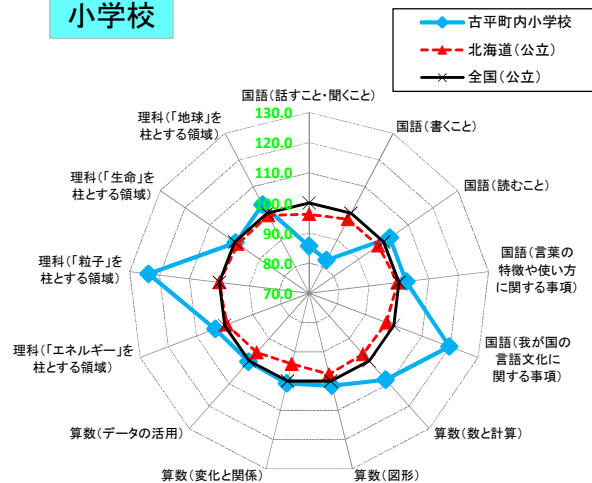
■古平町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:15人）（中学校数:1校、生徒数:14人）

【教科全体の状況】

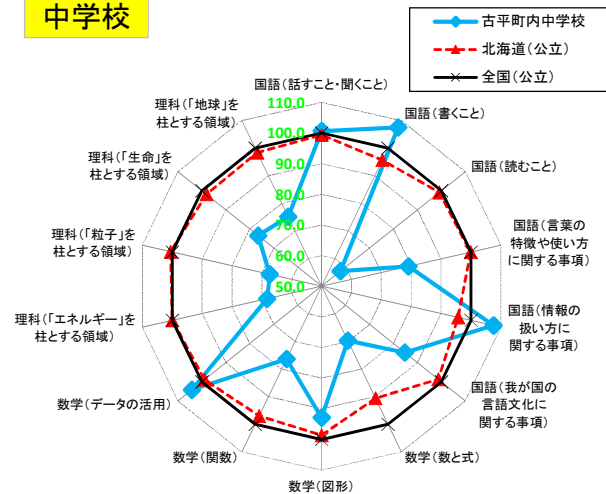
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	65	57
算数・数学	65	43
理科	67	35

小学校

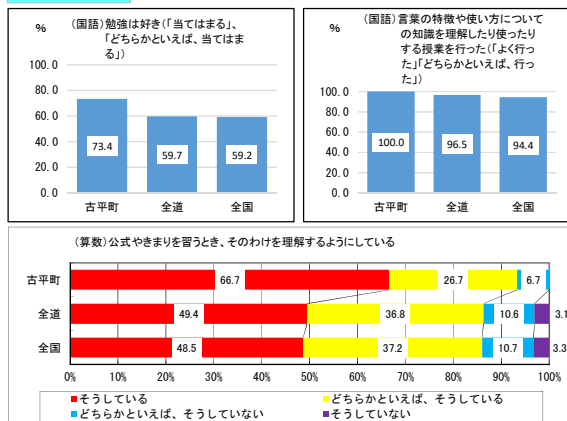


中学校

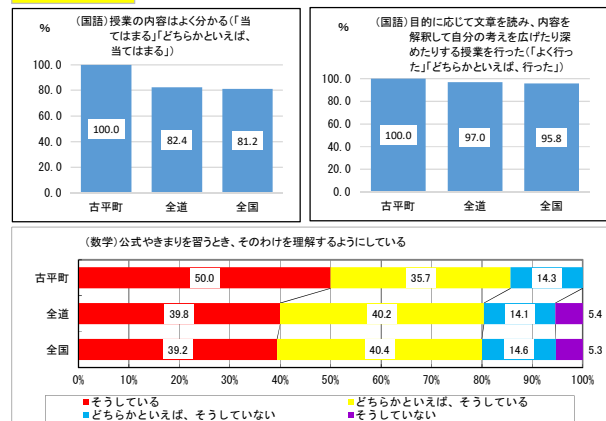


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
国語の指導において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、国語が好きになり、1領域2事項において全国及び全道を上回ったと考えられる。 算数の指導において、児童が公式やきまりを習うとき、そのわけを理解できるような授業を行ったことにより、全ての領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
国語の指導において、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする授業を行ったことにより、国語の授業の内容がよく分かるようになり、1領域1事項において全国及び全道を上回ったと考えられる。 算数の指導において、生徒が公式やきまりを習うとき、そのわけを理解できるような授業を行うなど授業改善を図ったことにより、「データの活用」の領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。

【古平町の学力向上策】

- ◎ 加配教員を中心として、児童生徒の課題を整理共有し、授業や放課後指導方法の改善・充実の実施
- ◎ ティーム・ティーチングによる指導や、個別・習熟度別指導など児童生徒の実態や学習内容に応じた指導の実施
- ◎ ICT機器最大限に活用し、視覚支援による授業の活性化や学習への意欲を高める取組の実施

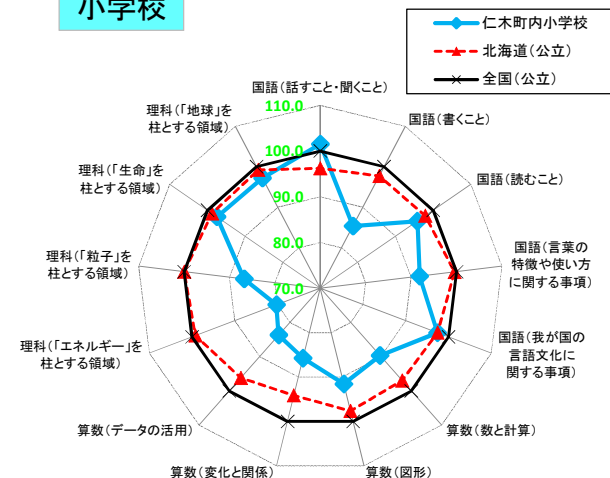
■仁木町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:29人）（中学校数:2校、生徒数:29人）

【教科全体の状況】

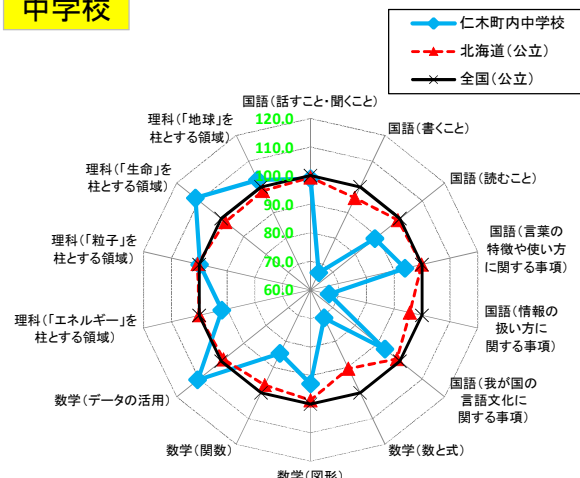
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

平均正答率	小学校	中学校
国語	62	65
算数・数学	57	45
理科	57	50

小学校

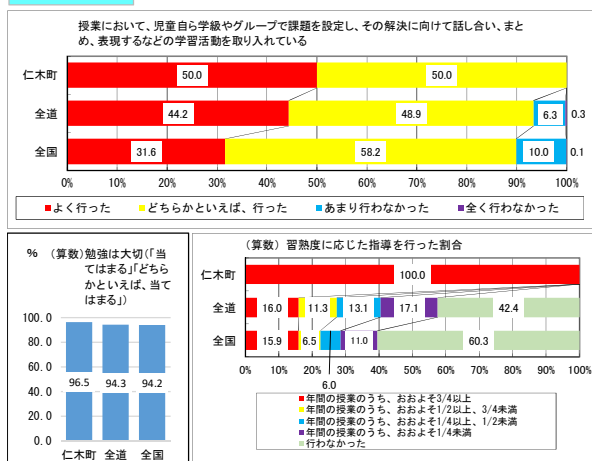


中学校

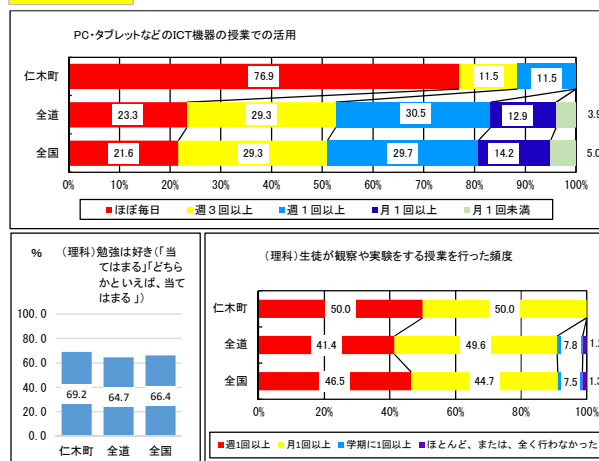


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、授業改善が図られ、国語の「話すこと・聞くこと」の領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の指導において、習熟度に応じた指導を数多く行ったことにより、算数の勉強は大切だと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を授業で積極的に活用することにより、授業改善が図られ、数学の「データの活用」の領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。

理科の指導において、生徒が観察や実験をする授業を数多く行ったことにより、理科の勉強は好きと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【仁木町の学力向上策】

- ◎ 児童生徒の学力向上や適応指導の充実を目的とした学力向上支援員の配置
- ◎ 外国語指導助手(ALT)の活用
- ◎ 教育的配慮が必要な児童生徒に対し、個々に応じたきめ細かな指導を目的とした特別支援教育支援員の配置

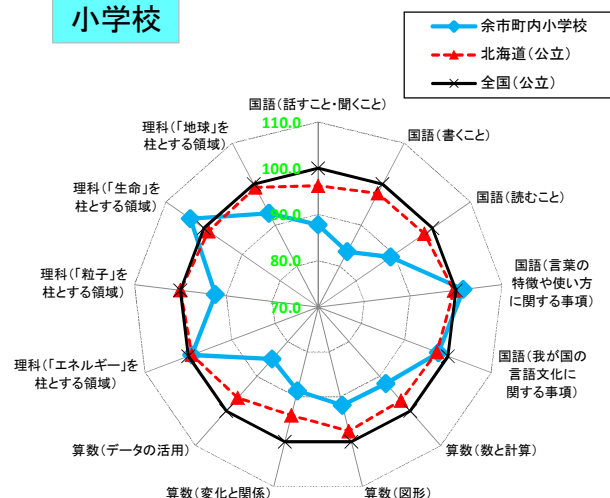
■余市町内の状況及び学力向上策（小学校数:4校、児童数:105人）（中学校数:3校、生徒数:128人）

【教科全体の状況】

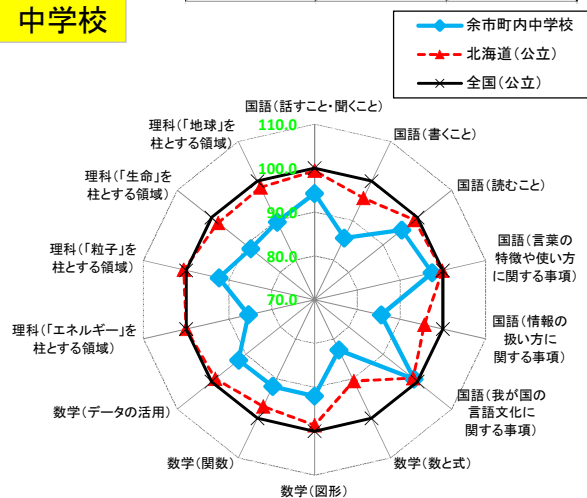
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	61	67
算数・数学	57	45
理科	62	44

小学校

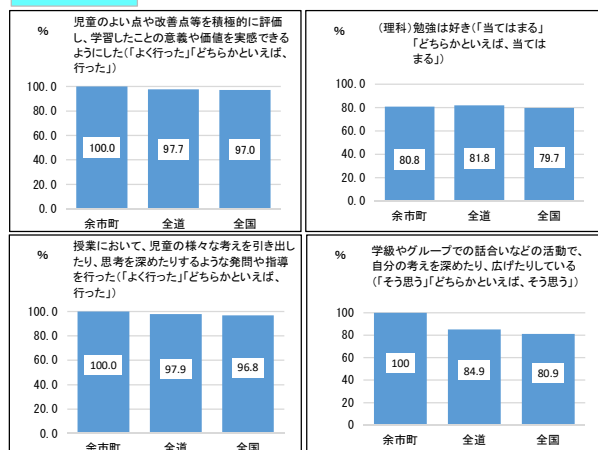


中学校

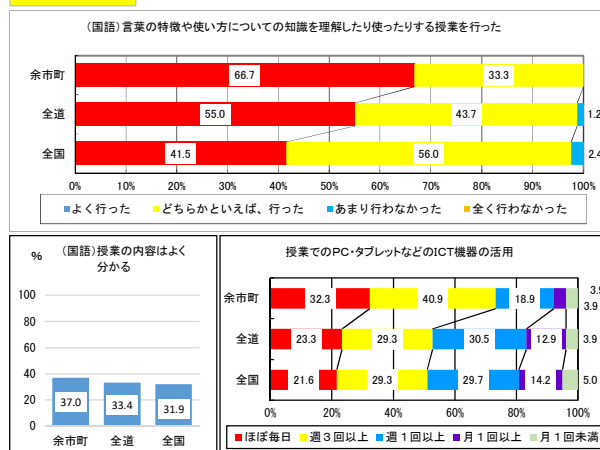


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

児童のよい点や改善点等を積極的に評価し、学習したことの意味や価値を実感できるようにしたことにより、理科の勉強が好きになり、理科の「生命」を柱とする領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。

授業において、児童の様々な考えを引き出し、思考を深めたりするような発問や指導を行ったことにより、児童は学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるようになったと考えられる。

中学校

国語の指導において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、生徒は国語の勉強がよく分かるようになり、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」において全国に近付いたと考えられる。

PC・タブレットなどのICT機器を生徒がよく活用する授業を行ったことにより、数学では、「データの活用」の領域において他の領域に比べて全国に近付いたと考えられる。

【余市町の学力向上策】

- ◎ 地域全体の学力向上に向けた町内全小・中学校の参加による授業改善推進チーム活用事業定例報告会の実施
- ◎ ICT機器を活用した児童生徒の主体的な学習活動や、学習意欲、思考力、判断力、課題解決力を育成する教育の展開
- ◎ 外国人指導助手を活用した生きた英語による児童生徒のコミュニケーション能力と国際感覚の養成

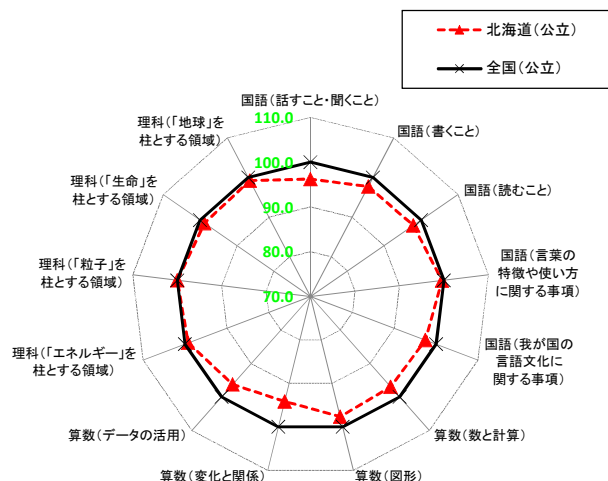
■赤井川村内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:10人）（中学校数:1校、生徒数:8人）

※児童生徒数が少なく、個人が特定される恐れがあるため、教科及び児童生徒質問紙のデータは掲載していない。

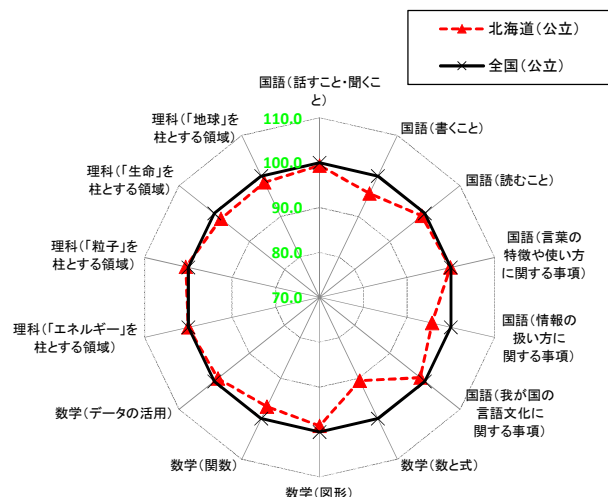
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

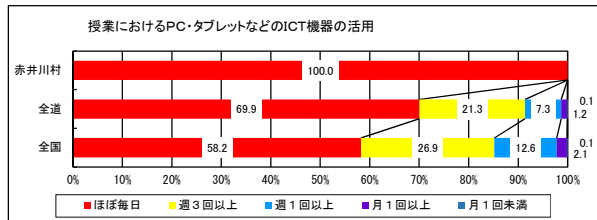
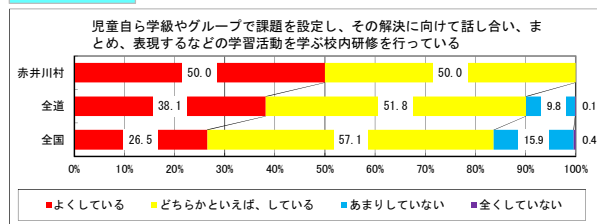


中学校

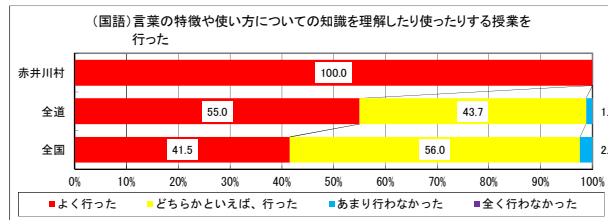
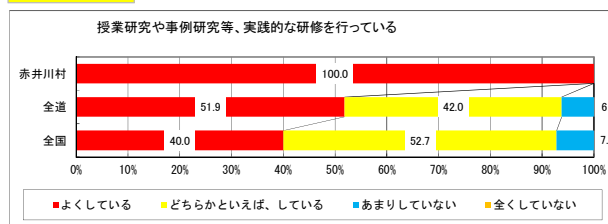


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行ったことにより、授業改善が図られ、国語、算数及び理科における基礎的・基本的な力が定着したと考えられる。

授業において、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日活用したことにより、授業改善が図られ、国語、算数及び理科における基礎的・基本的な力が定着したと考えられる。

中学校

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行ったことにより、授業改善が図られ、国語、数学及び理科における基礎的・基本的な力が定着したと考えられる。

国語の指導において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、国語における基礎的・基本的な力が定着したと考えられる。

【赤井川村の学力向上策】

- ◎ 学校運営協議会を通した学習の目的と方法を地域・保護者と共有することによる開かれた教育課程の推進
- ◎ 小中連携推進委員会を通した村内小・中学校の学習規律や学習過程の統一
- ◎ 1人1台タブレット端末を活用した分かる授業づくりの推進